

地方公共団体名： 長崎県対馬市

○提案内容

(1) 実現したい島のビジョン・方向性	
<p>自動運転技術を活用した、公共交通や地域コミュニティの維持、観光、一次産業等の産業の振興、及び海ごみ対策等環境問題への対応を行い、少子高齢化が進む本市の社会維持と活性化を図る。</p> <p>① 公共交通、市民の移動手段の確保、コミュニティの維持等の社会インフラ整備</p> <p>② 観光へのMaasの導入による産業の振興</p> <p>③ 林業作業等自動運転技術の活用による産業の振興と環境の保全</p> <p>④ 自動運転船を活用した漂着ごみ回収による環境の保全</p>	
(2) 新技術の導入により解決したい離島の課題	<p>課題の分類</p>
<p>① 対馬は島としては大きな面積に小規模で多数の集落が存在し、道路は南北を走る縦貫線から枝葉のように支線が伸びており、そもそも公共交通の維持に経費がかかる状況であることに加え、バスの運転手の高齢化も重なり公共交通網の維持が困難な状況になっている。</p> <p>一方で、他の自治体以上に加速的に高齢化・過疎化が進んでおり、昨今の社会情勢も相まって対馬管内の2か所の警察署における免許返納者数は平成29年が99名、平成30年が114名、令和元年118名と右肩上がりに伸びており、住民の移動手段の確保は急務となっている。</p> <p>② また、外国人観光客の増加と観光客の観光スタイルの変化から、対馬島内をレンタカーで走行する外国人が増えており、走行車線の違い等の交通ルールの差もあり、観光客の事故は増加している。また、レンタカーで観光をしても、どこに行くべきか、おすすめのスポットがどこなのか分からなかった、対馬で買いたいと考えていたものが見つからなかったという人は、日本人外国人にかかわらず少なくない。</p> <p>③ 対馬は島の面積の9割を山林が占める山の島であり、島内の材積量は約1,300万㎡に上ると積算されているが、昭和30年に3,000人を超えていた林業従事者は平成27年には141人まで減少し、林業は衰退の一途をたどっている。</p> <p>ある計算では、島内の森林成長は13万5千立米であるのに対し、利用料はおよそ6万立米にとどまっており、森林は大きくなり続けている。1次産業が衰退し、資源を産業化できずにいるだけでなく、森林が大きくなりすぎると、森が暗くなり、ツシマヤマメコをはじめとした希少な生きものが多い対馬の生態系に大きな影響も与える。</p> <p>④ 対馬はリアス式海岸である浅茅湾を有するなど複雑な入り江を多数抱え、島の海岸延長は915kmにも及ぶ。この複雑な入り江に、特に西海岸へは韓国や中国をはじめとした近隣諸国から大量の海洋ごみが押し寄せ、環境問題になっている。この漂着ごみを現在は各漁協等に委託をし回収を行っているが、行政としては何も生まない負の経費であるだけでなく、漂着ごみは産業廃棄物となるため、大半のごみは島内で処分ができず、多くの無駄なコストがかかっている。</p>	<p>下記のうち、該当するものを○で囲んでください。</p> <p>交通・モビリティ エネルギー 物流 防災 観光 教育 健康・医療 環境 産業 担い手確保・人材育成 その他</p>

(3) 新技術の導入による課題解決の方向性(イメージでも可)

① コミュニティバスの維持等市民の移動手段の確保

高齢者にとっては、日々の生活のための買い物や通院だけでなく、健康寿命の増進のための外出やコミュニティとの関わりを持つためにも、外出をすることは必要不可欠であり、そのための移動手段の確保に自動運転バスを活用したい。

→R2年度については、現在コミュニティバスを走らせている路線(ここも運転者や事務員不足)若しくは乗り合いタクシー路線にレベル2程度の自動運転バスを運行させることで数年後の実装に備える。

※主眼は社会インフラの維持と維持コストの削減。

② 観光路線でのMaaSの活用

自動運転バスも含めたMaaSを提供することにより、安全でかつ効率的な移動手段を提供する。

→R2年度は観光路線での自動運転バスの実証(及びその他の交通やサービスともつなげた形)で観光や物産販売等を複合的に行う。

※主眼は事業の独立採算観光客、ビジネス客の利便性の向上、ひいては産業の底上げ。

③ 自動運転の林業作業機械を導入することにより、森林資源の利用量を増やし産業を振興すると同時に、手つかずの山を人が管理することによる環境保全を図る。

→開始年度は未定。

④ 自動運転船による漂着ごみ回収を行い、行政コストの削減を図るとともに、集めた漂着ごみのリサイクルを図る。(現在P&Gが対馬での漂着廃プラを活用したソープボトルを制作しているが、さらに規模を大きくし、リサイクル率を上げ、環境への意識向上、及び環境の保全を図る。

→開始年度は未定。

(4) その他

当スマートアイランドの補助制度のみならず、他省庁の補助金も含め、活用を検討しているため、どの分野で申請ができるか(申請を行うか)はまだ未定です。また、関係機関を含め現在諸経費等を積算中のため、細かい経費の積算にはもう少し時間を要します。

※参考資料がある場合は適宜添付をお願いします。

○部局名・担当者・連絡先(電話及びメール)

部局名	担当者	連絡先(電話)	連絡先(メール)
しまづくり推進部 しまの力創生課	安重武志	0920-53-6111	aniutakeshi@city.nagasaki-tsushima.lg.jp